

I 先行的神の恵み

神は、私達の救いの為に、大切な御子を与えて下さり、御子イエスを信じる者に、罪の赦し、永遠の命、御聖霊と新しい命を与えて下さる。感謝します。キリスト者の生き方は、窮屈な生き方ではなく、心の中に与えられた助け主なる御聖霊と聖霊が与えて下さる新しい命（新生）とご性質により、主の恵みに感謝しつつ歩む新しい歩み。

II 神が与えて下さる命、ご性質による新しい歩み

1. 「盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるために、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい」：28。もし、盗みをしたことがあるなら、神に罪を告白し、人にも弁償できますように。御聖霊は、おわびするという消極面だけではなく、「むしろ」もっと、素晴らしい、積極的な生き方を与えて下さる。「むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい」：28。今、世界中はコロナの試練を受けている。この試練を通して、働くことが出来る仕事があることが、当たり前ではなく、有り難い恵みだと学ばさせられる。神に仕事が与えられている事を感謝したい。神が、まず、私達に、大切なひとり子と御聖霊とを惜しむことなく与えて下さった恵み、日毎の糧、命が与えられている恵みを感謝したい。神から与えられるすべてのものの十分の一は神のもの（マラキ3：10、「十分の一もおろそかにしてはいけない」マタイ23：23）であり、神に感謝してお捧げしたい。また、困っている人々に、神が与えられているものの中から、愛をもって分け与えたい。分け与える時、神はすべてを見ておられ、私達の心に喜びを与えて下さる。「神は、喜んで与える人を愛してください。神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれるようになるためです」Ⅱコリント9：7、8。

2. 「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役に立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい」：29。「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません」：29。

①「悪い」の意：腐っている（心が腐っていると腐った言葉が出て来る）、悪い、役に立たない。悪い言葉＝人の徳を養わない言葉。人を傷つける言葉。私達の言葉は、人を殺す事も、生かす事もする。「昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる（悪や罪に向かっての怒りではなく、人への怒り。敵意、憎しみ、恨み。殺人につながる怒り）者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『脳なし』と言うような者は、最高議会（最高裁判所）に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナ（地獄）に投げ込まれます」（マタイ5：21、22）。主の十字架の恵みがなければ、私達は、とっくに裁かれ滅びていた。神の恵みを感謝します！人のした悪い事を祈りつつ愛をもって正す事は、人の徳を立てる、人を成長させる。しかし、人のした悪い「事」への忠告ではなく、「あなたは、能無しだ、ばかだ、価値のない人間だ」というその人の人格をけなす、攻撃する言葉は、人を傷つけ、人を霊的に殺す事。互いに愛をもって真実に当人に語る事をせず、陰で、他の人に悪口として言う事も、捨てるべき悪い言葉。悪口を引き出す言葉にも気を付けたい。悪い言葉は、夫婦の関係、親子関係、すべての人間関係、教会の御霊の一致を壊す。

②私達は、実際の「行為」よりも「ことば」の罪の重みを軽く考えるかもしれない。しかし、主は、こう言われた。「心に満ちていることを口が話すのです。良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。わたしはあなたがたに、こう言ひましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。あなたが正しいとされるのは、あなたがたのことばであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです」(マタイ12:34-37)。主の再臨の時に行われる厳粛な事。ですから→「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません」。安易に「ああ、またやってしまった」という軽い態度、安易な繰り返しではなく、真剣な悔い改めが必要。「いっさい」と言われている。ほんの少しくらいではない。御言葉は真剣です！私達が、心で、ある人を怒り、憎み、人を傷つけたり、悪口を言う時、私達の心に住んでおられる神である聖霊は、深く悲しまれる。「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖い(救いの完成、主の再臨の時)の日のために、聖霊によって証印(真の救いの保証)を押されているのです」:30。人格をお持ちの御聖霊の悲しみは、私達の心に伝わる。御聖霊が私達の心に住んでおられる事が救いの証印、保証である。御聖霊の内住の印は、私達が自分の罪を認め、その罪の為に主が十字架で死なれた事を信じる信仰告白。「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません」Iコリント12:9。聖霊は、罪を悔いるだけでなく、新しく「改める」本気の応答を助けて下さる→

③自分の口から、良い言葉ではなく、悪い言葉が出易いと自覚させられる。「それ(舌)は少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます」ヤコブ3:8,9。

④自分の弱さを自覚し、人と会う前に、会に出席する前に心から祈る。「口、舌と私の心を聖めて下さい。悪い会話になびかないように守って下さい」と。「主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください」と。詩篇141:3。

⑤会話の最中、会の最中も、すべての言葉を神が聞いておられる事、心に御聖霊がおられる事を自覚し意識する。悪口に加担せず、御聖霊に導かれ、建徳的な事を語る。

Ⅲ 「ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい」:29。御聖霊の新生による新しい生き方。

①「必要なとき」。施しも。(「必要」は、28節の「困っている」と同じ原語)、良い言葉も自分勝手に語る(一方的にしゃべりまくる)のではなく、神からいただく知恵、判断力を祈り求めて(ヤコブ1:5)、真の必要に応じて話す事が出来ますように。「語るに早い」ではなく、「良く聞く」事が大切！「聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい」(ヤコブ1:19)。語る事、怒る事をおそくすると、相手も自分も祈る時間が与えられ、神が私達を冷静にさせられ、語る言葉に分別が与えられ、正しい怒りも、穏やかに言葉化され、神が相手と自分に働いて下さる時間を神に差し上げ、益となる。

②「人の徳を養うのに役立つことば」=人の霊的成長に役立つ言葉。教会の一致を保ち、教会の建て上げに役立つ言葉。「お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう」ローマ14:19。人の思いから出る言葉ではなく、人の徳を養う御言葉と内住の御聖霊に導かれる言葉。その為には、自分自身が、御言葉に養われ続け、御聖霊に心を支配していただく、御霊に満たされる事が大切。心に満ちているものが、口から出る。「聞く人に恵みを与えなさい」。聞く人に害を与えるのではなく、必要に応じ、徳を高める言葉により、恵み、霊的成長、励まし、神を見上げる恵みを与えることが出来ますように。

③神が私達に、口を与えられたのは、悪口を言う為ではなく、④神を賛美し(「私の口には、いつも、主への賛美がある」詩篇34:1)、⑤互いに励まし合い、互いに徳を高め合い(Iテサ5:11)、⑥主の御言葉、福音を人々に宣べ伝える為！